2025 年度後期 START＋プログラム 事後レポート

所属学部・学科・学年	教育学部・英語文化系コース・2 年

（1）START プログラムに参加して何を学んだか、この経験を今後どのように活かしていきたいか

今回の START+プログラムに参加した目的は、語学力の向上とともに、海外での学びを通して国際的な視野を広げることでした。これまで海外に行った経験がなかったため、実際に現地の大学や都市を訪れ、現地の人々や文化に触れることで、自身の視野を広げたいと考えていました。

現地では、半導体に関する講義を受けたり研究施設を見学したりする機会があり、半導体が私たちの生活を支える重要な技術であることを学びました。一方で、今回の研修で特に印象に残ったのは、現地の人々との交流や文化の違いを実際に体験できたことです。大学では、さまざまなバックグラウンドを持つ学生や研究者が共に学んでおり、互いの違いを尊重しながら意見を交している様子がとても印象的でした。多様な人々が集まる環境の中で学ぶことで、新しい考え方や発想が生まれているのではないかと感じました。

また、シカゴでの観光を通して、アメリカの都市の雰囲気や文化にも触れることができました。実際に街を歩いたり、美術館を訪れたりする中で、日本とは異なる歴史や文化、都市のスケールを体感することができ、とても貴重な経験になりました。こうした体験を通して、異なる文化や価値観を直接感じることの大切さを実感しました。今回の研修を通して、世界にはさまざまな考え方や文化があり、それらを理解しようとする姿勢が大切だと感じました。今後は今回得た国際的な視点を大切にしながら、語学力の向上にも取り組み、より多くの方々と交流できるよう努力していきたいと考えています。そして、この経験を今後の学びや将来に活かし、広い視野を持って物事を考えられるようになりたいと思います。

（2）プログラム内容についての全体的な感想

講義、施設見学、学生交流、そして現地での生活を通して、多くの新しい経験をすることができました。短い期間ではありますが、日本ではなかなか体験できない学びや気づきが多く、とても充実したプログラムだったと感じています。

講義では、半導体に関する基礎的な内容や、現在の技術が社会の中でどのように活用されているのかについて学ぶことができました。専門的な内容も多くありましたが、研究者の方々が実際の研究や社会との関わりについて説明してくださったことで、技術がどのように社会に役立っているのかを知る良い機会になりました。また、施設見学では、実際の研究環境を目にすることで、大学での研究が社会にどのように繋がっているのかを具体的にイメージすることができました。

学生交流の面でも、多くの刺激を受けました。現地の学生はとてもフレンドリーで積

極的に話しかけてくれたり、大学生活について教えてくれたりしました。こうした学生たちとコミュニケーションをとることの楽しさや大切さを実感しました。街の雰囲気や人々の生活スタイルなど、日本とは異なる点が多く、新しい発見がたくさんありました。実際にその場所で生活することで、その国の文化や社会をより身近に感じることができました。

このプログラムを通して、学問的な学びだけでなく、人との交流や文化の違いを体験できたことで視野を広げることができました。今回の経験は、自分にとって非常に貴重なものとなり、今後の学びや将来を考えるうえで大きな財産になりました。

（3）今後 START プログラムに参加する後輩へのアドバイス

まず準備物についてですが、現金については基本的にほとんどの場面でクレジットカードが利用できるため、多額の米ドルを持っていく必要はないと感じました。私の場合、現金を使ったのは主にコインランドリーなど限られた場面だったため、最低限の額で十分だと思います。

また、バッグ選びには注意が必要です。アイスホッケー観戦や美術館など、特にシカゴ観光の際には荷物の大きさに制限があり、リュックサックが持ち込めない場合がありました。そのため、パスポートや携帯電話など、必要最低限の貴重品を入れられる首からかけるショルダーバッグや小さなポーチのようなものを準備しておくと便利だと思います。食事に関しては、アメリカは物価が高いと感じる場面もあったため、費用を抑えたい時や胃腸があまり強くない人は、日本食を持っていくと安心だと思います。私自身も、日本から持って行った食品を何度か活用しました。

事前学習については、現地での講義が専門的な内容多いため、自分の専攻分野ではない場合でも、半導体に関する基礎的な知識に少しだけでも事前に触れておくと理解しやすいと思います。一方で、半導体の知識が十分でなくても、文化交流や学生同士のコミュニケーションなど、学べることは多くあります。特に英語を使って交流したい人や語学力を伸ばしたい人にとって、とても良いプログラムだと思います。

治安については、大学周辺は比較的落ち着いていて安心して過ごすことができました。ただし、シカゴの市内では大学周辺ほど安全ではないと感じる場面もあるため、貴重品の管理など基本的な防犯意識を持つことが大切だと思います。大学内にはスーパーはありませんが、少し歩いた場所にお土産なども購入できるお店があり、大学周辺にはさまざまな国の料理を楽しめるレストランもありました。

所属学部・学科・学年	工学部・電気システム情報学科・3年

（1）START プログラムに参加して何を学んだか、この経験を今後どのように活かしていきたいか

私が今回のプログラムに参加した最大の動機は、明確な目標もなく、ただ漫然と毎日

を過ごしてしまった自分自身に強い嫌悪感を抱き、その現状を打破したいと考えたからです。「自分を変えたい」という切実な思いを胸に、現地での活動に臨みました。
滞在中は、専門的な講義の受講に加え、現地の学生たちと深く交流する機会に恵まれました。彼らと共に過ごす中で最も大きな衝撃を受けたのは、その圧倒的なポジティブなマインドセットです。特に印象的だったのは、彼らが「失敗」を否定的に捉えず、むしろ成長のためのプロセスとして歓迎し、未知の領域へ果敢にチャレンジし続ける姿勢でした。周囲の目を気にしたり、効率ばかりを考えて足踏みしたりしていた私にとって、彼らの振る舞いは自分自身の消極性を浮き彫りにさせると同時に、目指すべき理想の姿を提示してくれました。
この交流を通じて、私は「失敗を恐れること」こそが最大の停滞であると痛感しました。現地で学んだ「まずは一歩を踏み出す勇気」と「挑戦を楽しむ心構え」は、本プログラムで得た何よりの財産です。日本に帰国してからも、日々の生活においても常に明確な目標を掲げ、たとえ困難が予想される場面であっても、失敗を恐れず主体的にチャレンジし続けたいと思います。

（2）プログラム内容についての全体的な感想

今回のプログラムを通じて、私は語学の壁を乗り越える粘り強さと、異文化の中で深い人間関係を構築する喜びを学びました。
講義においては、当初、自身のリスニング力が不足していたために内容を十分に理解できず、困難に直面する場面が多々ありました。しかし、そこで諦めるのではなく「聞き取れないからこそ、理解するために英語で食らいつく」ことを決意しました。積極的に挙手を重ね、拙い英語でも意思を伝えようと試みた経験は、単なる語学学習以上の自信に繋がりました。受け身ではなく自らアクションを起こすことの大切さを、身をもって学ぶことができた非常に有意義な時間でした。
また、滞在中は特に現地の学生との交流に注力しました。教室での対話に留まらず、共にジムへ通って汗を流したり、食事を囲んで将来の夢や互いの文化について語り合ったりすることで、表面的な「留学生」という枠を超えた、真の友人としての絆を築くことができました。こうした日常の何気ない交流の中で交わされる生き生きとした英語や感情の共有は、観光旅行では決して味わうことのできない、このプログラムならではの貴重な経験となりました。
このアメリカでの経験は、私の視野を大きく広げてくれました。困難に立ち向かう姿勢と、国境を超えて友情を育んだこの経験を糧に、今後も国際的な視野を持って成長し続けたいと思います。

（3）今後 START プログラムに参加する後輩へのアドバイス

今回のプログラムを終えて今感じることは、「勇気を出して参加して、本当に本当によ

かった」という強い実感です。
実は、当初の私は参加に対して消極的で、どうしようかと出発直前まで迷っていました。しかし、過去にこのプログラムを経験した友人の話を聞く機会があり、その熱量に背中を押されて参加を決意しました。もし「一人での参加は心細い」と不安に思っている方がいても、心配はいりません。現地での濃密な時間を共に過ごす中で、同行するメンバーとは驚くほどすぐに打ち解け、強い絆で結ばれたかけがえのない仲間になることができました。一人で飛び込んだとしても、決して一人ではないということを、身をもって実感しました。
また、英語力に関しても不安がありましたが、大切なのは流暢さではなく「伝えたい」という熱意でした。たとえ完璧な文章でなくても、伝えようという強い気持ちを持って話せば、相手は必ず応えてくれます。言葉の壁に怯えて立ち止まるよりも、まずは一歩踏み出してみることで、どうにかなるものだと学びました。
最後に、実用的な注意点として、現地の生活環境についても触れておきます。私が滞在した場所では、歯磨き粉や洗濯用洗剤などの日用品が備え付けられていなかったため、日本から持参するか、到着後すぐに調達することをお勧めします。こうした小さな準備不足も今となっては良い思い出ですが、あらかじめ知っておくと安心です。
もし今、行くかどうか迷っている方がいるなら、私は断言します。「絶対に行ったほうがいい」と。このプログラムで得られる経験と出会いは、あなたの人生にとって間違いなくプラスになるはずです。